
ギャグガンダム

伝書鳩リネロサーズディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギャグガンダム

【NNコード】

N9877Y

【作者名】

伝書鳩リネロサーブズティ

【あらすじ】

ここは戦死した人々が集まる謎の地でたくさんの戦死者が暮らして…そこで繰り広げられる笑いと感動？今…（めんどいので省略）

1 説 二つ目の口説（説明）

とつあんず書いてみた。

一話 こつもの日常

「」は戦死した人々が集まる謎の地でたくさんの戦死者が暮らしていました。そこ広い野原で、たくさんの人たちが仲良く遊んでいました？

リュウ：「おい！…アムロ野球しようぜ！…」

草の上で転がっているアムロにリュウ・ホセイは声をかける。

アムロ：「うるせえなデブ！…勝手にやつとけや！」…」

なぜかアムロがきれる。

リュウ：「そ…そんな…」

リアルに落ち込むリュウをしつ田にアムロは再び田を閉じ…

リラフア：「アムロ…そんな態度をとっちゃダメよ…」

アムロ：「おお…ララタン…俺に会ってに来ててくれたの…」

いきなり飛び起きてアムロは体をクネクネさせる

シャア：「誰がお前なんかと会つためにリラフアが「」まで来るものか…！」

この私に会いに来ててくれたにまつてるじゃないか…」ねえ～「リラフタン。」

詰め寄り。」「からわいてきたのがシャアまでもが体をケネケネさせトトアに

ララア：「黙れ！！天パーと口りが！！」

二人の目にララア両手の指が突き刺さる。

一人は目を両手で押さえながらその場で倒れのたうち回る。

アムロ：「はあ…はあ…だが、これはこれで…いいかも…」

シャア：「奇遇だな私も…そう思つていたところ…」

ゴス！！と鈍い音を立ててアムロの背中にジャンピングエルボーが炸裂し

た。

アムロ：「ガハッ！！」

その一撃でアムロの意識は失う。

ララア：「すいません大佐、さつきなんて言ったなんですか？よく聞こえな
かつたのでもう一度お願ひします。」

再び立ち上がったラーラアがシャアにゆづくと詫ねる。

シャア：「いや……その……だから、大佐じやなくてシャア総帥……」

仰向けになりガラ空きとなつていていたシャアの腹にすべての力を込め
たかか

と落としがズバーン！！と大きな音を立ててあたる。

シャア：「ウッカ！」

お！お！

口から泡を吹きシャアも氣を失つた。

リュウ・ひつ・ひい

あまりの恐怖に尻もちをついたリュウがその場で震えていた。

「ハハハ おしゃれな人だ！」

リュウ：「はつ、はい…！」

あまりの恐怖で声が裏返る。

ララア：「あの一人が起きたら次そんな」としたら命はないぞって
伝えと

けよこいなーー！」

返事も聞かず、リコウアはその場を立ち去る。

リコウ……俺つて、テブなのか？

その通りである。

ウッティ：「おお、誰かと思つたらホワイトベース隊唯一のテブじやないか。」

リコウ：「タムラ料理長もテブだつたぞーーー。」

？？？：「ほお……ココウセキセキが惜しくないようですね……」

リコウ：「あせか……その声は……」

後ろから視線を感じ、リコウはゆっくりと後ろを振り向く。やれりま両手に

包丁を持ったタムラ料理長が立っていた。

タムラ：「いいんですよ、私は気にしないませんから……むと、今田のメ

リコウはリコウ・ホセイと野菜の炒め物こじつけ。うん、それがいいーーー！」

両手にたくさんの料理用具を持ったタムラ料理長がリコウの首に包丁を突き出す。

リコウ：「タムラ料理長、めんなやーーー博の塩をたべたこあが
るから
許してーーー。」

タムラ料理長：「もう遅いわーーー。」

リコウ：「ややあああああああああああああああああああああ
ああ
あああああーーー。」

レーベル：「…なこかつだだだだだだだだだだだだだだだだ

次回に続く

1 試 こつもの口算（後書き）

なんかすぐできた。

第一話 反省会

シャア：「アムロちよつといいか？」

アムロ：「どうしたんだシャア？あつ……もしかして新作のギャル
ゲ……」

シャア：「ちがうだアムロ……最近先読み能力が鈍っているんじや
ないか？」

アムロ：「えつ……ちがうの……がっかりだ……」

シャア：「あからさまにがっかりするんじやない……前回のいつも
の日常の反省をしようと思つてな……」

アムロ：「ああ……お気に入りのコーラーのジンダイさんの散々言わ
れしたことまだ気にしてんの？」

シャア：「まあな、こんなクソ小説放置してしまえって言われたか
ら……ちゃんと認められるようにしつかり反省すればもしかしたら認
めてくれるかもしねんしな。」

アムロ：「なるほど……よしのつた……早速反省を始めようじやない
か……」

シャア：「んじやそういうこと……まず感想で書かれたことを振り
返つてみよう。なんて書かれてたんだっけ？」

アムロ：「ちょっと待つてね……えつと、なになに……ふざけてるのかな
？原作のキャラ崩壊はちゃんとあらすじに書かないといけないよ（
怒）。やっぱり文章の区切りと行の最初を開ける所が出来てないね
(激怒)。ギャグ書くにも真面目にしようか、ギャグ小説の基礎も
出来てない（憤怒）。ただギャグを並べるだけじゃだめなんだよ（
黒怒）。他の作品見て勉強しようか（狂怒）……つだつて。」

シャア：「これをアドバイスとして受け取るか、悪口と受け止める
かどうか迷うな……」

アムロ：「だが、シャアよ。これを悪口と断定したら「」の人は「」の
小説を荒らしてくるところになってしまつぞ……」

シアア：「眞われてみればそうだな…」」」せやはりアドバイスとして受け取ることにして…早速一から反省してみよつ。まづはキャラ

崩壊はあらすじに書け…についてだが…アムロどう思つ?」

アムロ：「うへん… ギヤグなんだしキャラ崩壊くらこは容易に予想できるもんだと思ってたんだが…やはり無理があつたのか?」

シアア：「感想に書くくらいなんだから、無理があつたんじやないの?」

アムロ：「そうちかもしれないな…んじゃあ、あらすじのところに、キャラが崩壊しています…と書き足しておけばこの問題は解決だな。」

シアア：「まあそれでいいんじやないの?それでは次にいつてみるか…分の区切りと間はいいとして…ギヤグの基礎ができるいいとギヤグを並べていいだけだ…のところか…」

アムロ：「それはもう理由ははつきりしている。あのテブのリュウをほほいじつていたところが問題なんだ。」

シアア：「なるほど…でもあのテブほどいじりやすいキャラはいないんだぞ…リュウは封印したとしてもその後はいつたい誰をいじればいいんだ?」

アムロ：「あつ、そつか…それなら今から決めてしまおうじやないか。」

シアア：「ん?…どうこうことだ?」

アムロ：「いじるとしたら俺たち一人のほうがいい感じがするし、それなら今こいじりやんけんをして負けたほうがこれから最終話までいじられるところのはどうだ?」

シアア：「…いいだらうのつた!…」

アムロ・シアア：「最初はグー…じやんけんぽん!…」

アムロ パー・シアア チョキ

シアア：「私の勝ちだな…」

アムロ：「うおおおおおおおおおお…なんてこつた!…」

シアア：「そういうことで、最終話までがんばってね。いじられキ

ヤラクターさん」

アムロ：「最後の　が地味に頭にくるんだが…」

シャア：「あつ…今ガンダムVSガンダムEXTREME VSのCM流れた。」

アムロ：「無視かよ…まあいいけどね…」

シャア：「これで一通り反省は完了したか…」

アムロ：「そうだな…あとはほかの小説をみて勉強でもするか。」

シャア：「たいした落ちもなくて終わってしまうのが少し悲しいような…」

アムロ：「それなら作ればいいじゃないか。」

シャア：「懐かしい…ジャパンを思い出したぞ。」

アムロ：「というわけで次回から新章アムロとシャアと呪われし姫君たちが始まるからよろしく。」

シャア：「…これのどこが落ちなんだ？」

た次回に続く

ま

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9877y/>

ギャグガンダム

2011年12月1日19時49分発行